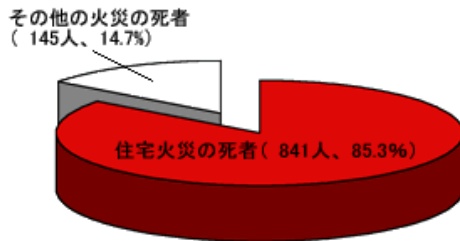


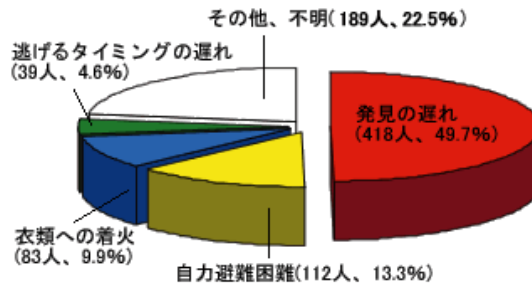
なぜ設置するの？

- 住宅用火災警報器は、火災の発生を早期に知らせ、あなたや家族の命を守ってくれるからです。

**火災による死者の8割は
住宅火災から発生しています**



**住宅火災により亡くなった人の
5割が「発見の遅れ」です**



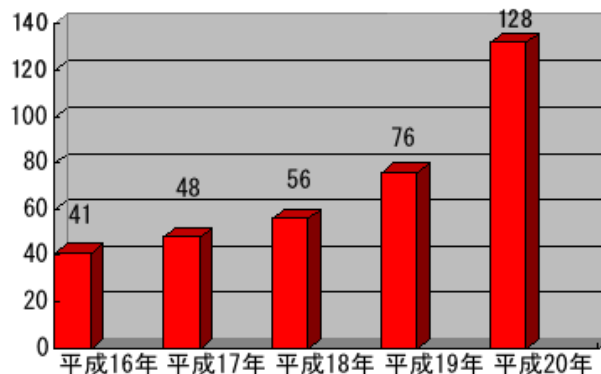
※東京消防庁管内の平成10年～平成19年の統計

- 住宅用火災警報器等の有効性 ～被害が軽減された事例報告増加～

火災の発生を未然に防いだ事例や、火災は発生してしまいましたが、被害が少なく済んだ事例など多くの報告がされています。平成16年から平成20年までの奏功事例の報告件数は、年々増加しており、住宅用火災警報器の設置が効果をあげています。

住宅火災による被害を低減するため、住宅用火災警報器の設置が義務化され、東京消防庁管内では、平成22年4月1日から住宅用火災警報器の設置がすべての住宅に義務付けられます。

住宅火災から、大切な家族や財産を守るため、住宅用火災警報器を早期に設置しましょう。



※東京消防庁管内の近年5年間のもの

- 住宅用火災警報器の鳴動により被害が軽減された事例

万一、就寝中に住宅が火事になれば、人命を落とすかもしれません。住宅用火災警報器により早期に火災を発見できれば避難や初期消火ができるので被害を最小にすることができます。



ハロゲンヒーターをつけたまま就寝！警報音で目が覚め火災に気付いた事例(H20.11)

20代男性のAさんは、深夜にハロゲンヒーターをつけたまま寝てしまい、ハロゲンヒーターで熱せられたベット上の掛布団が燃え、火災となった。住宅用火災警報器の警報音で目を覚まし、Aさんは、すぐに風呂場からシャワーのホースを伸ばして消火した。

寝たばこにより出火！警報音で隣の男性が火災に気付いた事例(H20.11)

火元建物の隣に居住する男性(50歳代)は、自宅の居室にいて、隣の共同住宅から住宅用火災警報器の警報音とともに「火事です。火事です。」という音声で10分程度鳴り続けたので、自宅の電話から119番通報を行った。

到着した消防隊が火元室の扉を開けると、室内に白煙が漂い、居住者の男性(70歳代)が就寝しているのを発見した。その後、男性を起こし避難誘導した。

原因は、居住者の男性の寝たばこにより布団に着火し出火したものである。